

こんなことがありました～高学年～

【横浜市球技大会】11月5日(土)三ツ沢陸上競技場にて

横浜市立小学校球技大会(サッカーの部)が行われ、本校児童が、神奈川区代表として参加しました。綺麗な芝で、のびのびプレーができ、とてもよい思い出となりました。

ぼくたちのチームは、2回とも負けてしまいました。練習と本番は、全然ちがいました。その1つはコートです。いつもの練習は、学校の校庭だったので、パスがちゃんと通ったり、ドリブルが上手くできたりしましたが、本番のコートはしばふだったので、校庭のようにパスが通りませんでした。それに比べて、相手チームはパスがちゃんとまわっていたし、自分たちでドリブルやシュートを決めていて、敵だけどすごいと思いました。

5年1組 大津 凜恩



ぼくは市球技大会で、「みんなで力を合わせることを」がんばりました。なぜなら、サッカーはチームでやるスポーツだからです。勝った喜びも負けた悔しさも、みんなで感じ合うことができます。これまでぼくたちは、練習を精いっぱいがんばってきました。その努力はむだにはならないと思います。これからもいろいろなことに挑戦していきたいです。

5年2組 山田 悠雅

【日光体験学習】11月16日(水)～18日(金)

2泊3日で、日光体験学習に行ってきました。世界遺産の富岡製糸場や日光東照宮、戦場ヶ原など、たくさんの歴史や自然に触れてきました。

私はレク係で学年レクを計画しました。みんなが盛り上がるように話し合って決めたレクが大成功でした。クラス対こ歌合戦に向けて、クラスでたくさん練習してきました。優勝できたのがとてもうれしかったです。日光体験学習のテーマでもある、チームワークを高められ、クラス・学年の絆が深められたと思います。世界遺産富岡製糸場では、昔の人が糸を作っていた機械が思ったより大きく、まゆから糸を取る段階から機械でやっていたことに驚きました。

6年1組 平本 楓



ぼくは、日光体験学習で自然や歴史を感じることができました。ハイキングで豊かな緑の中を歩いたり、滝を見たりしてすごく気持ちがよかったです。富岡製糸場や東照宮の建物を実際に見て、授業より深く歴史を知ることができました。また、ぼくは学年レクで自分の特技を発表しました。「失敗を恐れずに何事にも挑戦することが大切」だと気づけたことが、自分の成長だと思います。学年の友達ともふれ合い、チームワークを高められ、自分自身だけでなく学年も成長したと思います。体験学習で感じた成長をこれからの学校生活に生かしていきたいです。

6年2組 押切 陽大



ぼくは、日光へ行く前の調べ学習で「富岡製糸場」を担当し、製糸場についてたくさん調べました。特に製糸場に行くのが楽しみで、早く行きたいなと思っていました。製糸場で一番心に残ったことは、まゆから糸を取り出す機械が複雑な動きをしていたことです。速くて、正確に、みんな同じ動きができる機械の技術は、すごいと思いました。調べて分かったこともあったけれど、実際に行ってみて分かったことがたくさんあって驚きました。あと4カ月で中学生になるので、この日光体験学習で学んだことを生かして勉強もがんばりたいです。

6年3組 杉浦 日向汰

横浜市立羽沢小学校学校便り

羽 沢

平成28年11月30日
横浜市立羽沢小学校
学校長 田屋 多恵子

羽沢小学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hazawa/>



子どものSOCを高めよう

校長 田屋 多恵子

羽沢小の校庭の木々の葉も落ちはじめ、今年は例年になく横浜でもすでに雪が降りました。子どもたちは2学期に運動会を初めとして様々な行事に取り組みましたが、その体験を通して子どもたちの成長が実感できました。さて今月のタイトルのSOCですが、自己肯定感の1つのとらえ方です。精神科医齋藤環氏によると「理解可能観」「処理可能観」「有意義観」の3つだそうです。

「理解可能観」とは、自分のおかれている状況を一貫性のあるものとして理解し、説明や予測が可能であるとみなす感覚のことです。実際に予測が100%可能とは限らなくても、そう本人が「感じられる」ことが大切だそうです。

また、「処理可能観」は、少々困難な状況に陥ってもそれを解決し、前に進めるだけの能力が自分には備わっているという感覚のことだそうです。ここには自分だけでなく「人に助けをもらえるだろう」という期待感覚も入っているそうです。最後に「有意義観」ですが、自分のしていることが、自分の人生において意義のあることであり、時間など一定の労力を払うに値するという感覚だそうです。これらは実は根拠のない自信であり、先ほど書いたようにこの「世界」に対する基本的信頼感でもあるそうです。SOCは将来にわたって発達し、成熟していく感覚といわれているので、何も子どもの頃の環境だけが影響するわけではありませんが、心の成長が著しい子どもの頃の環境も大切だといわれています。SOC等というと難しく聞こえますが、「理解可能観」は簡単に言えば、「今自分で決めて取り組んでいることは、この先はこんなふうに進められる」と自己決定をして、今自分が取り組んでいることに自分なりに見通しがもてることであり、「処理可能観」は「なんとか自分で解決できそう、多分ここを教えてもらったらいいだろう」と解決方法があると思えること、さらに「有意義観」は、自分で取り組んでいることには意味がある、ひいては自分の存在は意味があると思えることだと思います。

「今の係活動はうまく進みそうだ。」「学級で話し合った集会は成功しそうだ。」「運動会の応援団でがんばっている自分が好きだな。」と、子どもたちが、日々の授業や行事の中で、自分から選択し、決定をして自分から取り組みやりとげる体験のサイクルを通して「自分ってなかなかいい存在だな。」とか「地域の人も学校の友だちも自分を助けてくれる、羽沢のまちっていいな。」と思うことができ、その中で子どもの中にSOCが育っていくとよいなと思います。

平成28年度がスタートしてはや9ヶ月が過ぎました。年末を無事に迎えられ、また4月からの教育活動が充実し、スムーズに運営できましたことは地域の方々のご協力とPTAの方々のお力添えがあったからだとありがたく思っております。来たるべき年が皆様にとって佳き年になりますように願っております。